



●Answer

ざん おういん きゅうようじ ぜんじゅうしょく  
沖縄市・コザ山 仁王院 球陽寺 前住職  
帰依 龍照 (きえ りゅうしょう)

Q 年明け早々、父と母を続けて亡くしました。近所のおばさんたちから「次は3人目のあなたが連れていかれる」「四十九日までにお父さんとお母さんが飼っていた子犬をあなたの身代わりに殺しなさい」と強く言われています。あまりにむごく、そんなことできるわけがありません。私はどうしたらいいのでしようか?

(南城市・Tさん・30代・女性)

A Tさん、よくご相談してくださいます。ご両親のお葬式をお勤めされ、その悲しみはいかばかりかとご心中をお察し申し上げます。また、連續して不幸があれば、次もお葬式があるのではという不安は、今昔関わらずあつて然りだと思います。

Tさん、よくご相談してくださいます。ご両親のお葬式をお勤めされ、その悲しみはいかばかりかとご心中をお察し申し上げます。また、連續して不幸があれば、次もお葬式があるのではという不安は、今昔関わらずあつて然りだと思います。

私たちには、寿命という表現で人生の期間を推し量るうとする傾向があるといいます。人生100歳の時代とうたわれる昨今、人の一代(世帯主など、家族の中心的な立場にある期間)を概ね20年~50年間と、概算していく方法があります。このような考え方のとき、お葬式も20年~50年間は行わなくていいという単純な発想になります。しかし、実際にはTさん家のように続けてお葬式をお勤めしなければならない

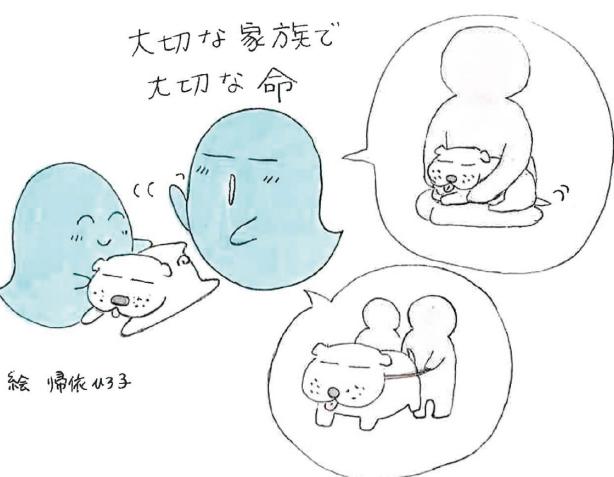
こと、故人の供養があることに気づかされたのです。そう考えますと、Tさん家でも少なからずお葬式をお勤めしなかつた長い期間があつたのかもしれません。

しかし、その間、わが家は60年以上もお葬式がなく、たまたまその空白の期間が短かつただけのことだと恩師からご法話を頂戴したとき、残された私はこの期間を気にするより、もっと他に気にしなければいけないこと、故人の供養があることに気づかされたのです。

世界中の宗教学や民俗学には、生贊と身代わりの文化があるといいます。沖縄を含む東アジア圏にも、その考え方にお葬式にあって顕著です。特に故人と縁のある動物に対して、その死をもつて代償を求めていた歴史的な事実が、私たちの沖縄にもありました。

もちろん、ご両親が愛してやまなかつた子犬を殺してはいけません。大切な方々の死を大切な動物の死で弔うことは、新たな悲しみを生むだけのことです。

このようなとき、沖縄の先人の方々は、葬儀のティンゲー(天蓋)という竜の頭を象った祭具で、その身代わりを表現したり、サンキ(ゲーン)スス(3本を結んだ祭具)を準備して動物の身代わりにするなどして、いのちの尊さを再認識したといいます。



帰依 龍照(きえ りゅうしょう)

1968年岡山県出身(52歳)/学歴:岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒/専門分野:哲学(宗教哲学)/コザ山 仁王院 球陽寺(京都創建・正嘉2(1258)年、沖縄移転・昭和36(1961)年)・第18代住職/沖縄県宗教研修会・理事長/沖縄県内にて年間多数の住宅・墓の起工式(地鎮祭)を担当しつつ、行政・企業・学校における『琉球・沖縄のしきたり』に関する講演活動を行う娘1人と息子3人の父親。

## お葬式の間隔

## 生贊と身代わりの文化

## 身代わりには身代わりを

Tさんへのご回答としましても、同じようにぬいぐるみなどの身代わりをご準備することで、近所のおばさんたちもご理解してくださいます。

しかし、動物愛護の観点からは、ぬいぐるみに身代わりをさせること自体、根本的な解決にもつながっていないとのご指摘があつて然りだと思います。動物のいのちの尊さをどのように考えていけばよいのか、次の世代にどのよう伝えなければよいのか、私たちは沖縄のしきたりの現実から目を背けることなく、謙虚に考慮していかなければならぬでしょう。

**【質問をお寄せください】** 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q & A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は19面をご覧ください。